

令和7年度 学校評価報告

草加市立川柳中学校
(令和8年1月27日作成)

1 学校教育目標	
<p>【賢く】 ・「主体的・対話的で深い学び」に取り組み、未来を力強く切り拓く生徒 ・自分の思いや考えを伝えられ、良識ある判断ができる生徒</p> <p>【優しく】 ・自他一人ひとりをかけがえのない存在として大切にし、正しい行動のとれる生徒 ・誰とでも協力して活動し、喜びを分かち合える生徒</p> <p>【逞しく】 ・共に磨き合い、課題や目標に挑戦し、あきらめない生徒 ・健康の保持増進と体力の向上に努め、安全な生活を心がける生徒</p>	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善と学習習慣の確立による学力の向上 ・生徒を認め、鍛え、育む中での豊かな心と逞しい体の育成 ・生徒の自立を促す学年・学級経営の充実 ・学校力を高める校内研修の充実 ・潤いのある学校環境の整備と美化の推進 ・豊かな人間関係の育成 ・保健・給食指導の充実及び体力の向上 ・進路指導・キャリア教育の充実 ・一人ひとりの自立を引き出す特別支援教育の推進 ・学校防災体制の確立と安心・安全な学校づくり 	<p>成果</p> <p>○県学調「学力を伸ばした生徒の割合」が平均よりも高い学年や教科が多数であった。</p> <p>課題</p> <p>●教員数の減少に伴う校務分掌の見直し等働き方改革</p>

4 評価表 ※評価基準【A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である】				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	<p>○校務分掌の見直しを図り、分掌の統合、削減を行うことができた。</p> <p>○年間を見通した、計画的な職員会議企画・運営を行うことができた。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	A	<p>○各教科での授業研究会へ参加することができ、授業改善に努めることができた。</p> <p>○校内研修を充実させ、日々の指導に生かすことができた。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<p>○教職員一人一人が日々の生活の中で、破損等の確認をし、修繕につなげることができた。</p> <p>○歯みがきに関する指導を継続し、年間を通じて健康管理に努めることができた。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<p>○校務用PC、個人情報持ち出し簿を適切に活用し、情報管理に努めることができた。</p> <p>○保護者学校評価「学校は安心して学べる場所となっていますか」のAB評価が94.5%を越える数値となった。</p>
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<p>○保護者学校評価「学校は情報をわかりやすく伝えていきますか」のAB評価が88%であった。</p> <p>○近年実施できていなかった学校公開を行い、生徒、教職員の日々の取り組みを参観していただく機会を作ることができた。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<p>○小中相互での教職員による授業見学会を実施し、日々の指導や引継ぎに生かすことができた。</p> <p>●作品交流は行うことができたが、児童生徒が交流できる取り組みを今後も検討したい。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教育目標は概ね生徒、保護者に理解されていて、学年・学級経営に生かすことができた。 ○教職員学校評価「年間授業時数の配当は適切であったか」のAB評価が100%であった。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒評価「授業中しっかり話を聞き、考えようとしている」が95.1%以上であった。 ●個々の課題として、「課題解決を図るような考え方」の能力を高める授業改善に努めていきたい。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学年の行事や計画に合わせて扱う項目を選択することができた。 ○ローテーション授業の実施により、授業準備を全体に対して活かすことができた。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各行事では、生徒一人一人が意欲的に行事に向かい活動し、達成感を味わわせることができた。 ●行事との兼ね合いを調整し、学級活動（話し合い活動）の時間の確保が必要。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間を見通した学習（SDGs）を計画的に行うことで、探求を深めることができた。 ●生徒の学びに向かう態度を高めるための課題設定が重要である。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活において、概ね学校の決まりを守り、落ち着いて過ごすことができる生徒が多かった。 ●ICT端末をうまく活用して、不登校生徒に対する学習機会の保証を進めていきたい。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○高等学校と連携し、上級学校講演会を開催することができた。 ●社会体験事業が再開できたことは、生徒にとってよい経験につながったが、事業所の確保については、課題が残った。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員評価「行事などを通して交流を深められているか」で、AB評価が100%であった。 ●次年度は、通常学級で支援が必要な生徒へのサポートを充実させたい。
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書、昼の図書館開放等を計画的に行い、書物に触れる機会を確保することができた。 ○毎月図書室だよりを発行し、生徒のおすすめ本の紹介やイベントを企画し、興味関心を高めることができた。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT端末の持ち帰りに関するきまりを整備し、家庭学習等で活用する機会を設けることができた。 ○非行防止教室を通して、SNSに関する内容など情報モラルの指導を行うことができた。
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修で教職員の人権感覚について、ブラッシュアップし、共通理解を図り、教職員一人一人が生徒に指導する際にも意識することができた。 	

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色 ある 学校 づくり	若手教員が多い、活力のある元気な学校	・ミドルリーダーの育成 ・OJT研修等の活用 ・ボトムアップ手法の活用 ・働き方改革の推進 ・生徒との信頼関係	A	○生徒学校評価「授業は、分かりやすく楽しい」のA評価は89%、「先生は悩み事の相談にのってくれる」は92.5%、「友人関係は良好である」は98%であった。 ○今後の部活動についての検討や日課表の見直しを図ることができ、働き方改革を推進することができた。
	自己肯定感・自己有用感を育む授業づくり	・わかる・できる・たのしいと実感できる授業 ・振り返り学習の充実 ・学力調査の結果と分析	A	○生徒学校評価「学校生活が楽しい」のA評価は90%を越え、「部活動に積極的に取り組んでいる」は93.4%、「係や委員会活動に積極的に取り組んでいる」94.9%となっており、授業だけでなく学校生活全体で自己肯定感・自己有用感を育むことができた。 ○県学力調査の結果から、正答率は平均よりやや下回ったが、学力を伸ばした生徒の割合「国語」は全学年で県平均を上回っていた。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

本校の生徒は、明るく元気で活力のある生徒が多い。授業や部活動に集中して取り組む姿勢が多くみられる。本年度の埼玉県ของ学力学習状況調査では、正答率については、全体的に県平均を下回る数値であったが、学力を伸ばした生徒の割合は全体の約半数が県平均を上回っていた。引き続き、「わかる・できる・楽しいと生徒が実感できる」授業づくりを目指した改善を図り、生徒の自己肯定感・自己有用感の向上につなげていきたい。

学校関係者評価ではC・D評価はなく、特に「学校だより等で学校の様子が伝わってきますか」のA評価が83%であった。

今後も生徒が主体的に活動し、観る人を感動させる学校行事の充実や交通指導や環境整備などの活動を通してPTAとの連携強化をより図っていきたい。

6 次年度の改善策

- ①学力向上のために教員の授業力を向上させる。小学校を含めた相互授業参観を計画するなど、教員が主体的に指導力向上に取り組める環境を整えていく。また、生徒が「課題解決を図るような考え方」の能力を高められるよう、各教科で研修に取り組んでいく。
- ②不登校生徒への支援を充実させていく。教育相談部会での情報交換、支援に関する検討の中で、生徒が学校や社会とつながる支援として、オンライン授業やメタバース空間の利用、AIドリルの家庭での利用などICT端末を効果的に活用していく。
- ③家庭・地域に応援される学校を目指す。学校だよりやHPの充実、行事や学校公開を通して、生徒の活躍している様子を積極的に発信する。PTA、学校運営協議会委員の皆様とも連携強化を図り、学校を盛り上げていく。
- ④働き方改革の取組をさらに進める。今年度、部活動検討委員会を定期で開催し、今後の方向性を定めることができた。今後も生徒数、教員数に合わせた中での学校行事の維持、修正を図り、業務削減・業務改善に努めていきたい。